

価値観と倫理チェックリスト（ファシリテーター向け）

日付： _____

リカバリーおよび Taking Action プログラムは柔軟で適応性がありますが、必ず守らなければならない特定の価値観と倫理があります。各セッションの後、以下のチェックリストを確認してください。「いいえ」にチェックした場合は、次のセッションでそれをどう変えるかの計画を書いてください。

- このセッションは、参加者が自分自身の計画を立て、自らを教育・代弁し、仲間や他者との強固な支援体制を築くことを支えながら、希望、個人の責任、自己決定、エンパワーメントの感覚を参加者に与えましたか？（はい／いいえ）
- すべての参加者は、尊厳、思いやり、敬意、無条件の高い評価をもって平等に扱われ、特別な才能や資質を持つユニークで価値ある人として受け入れられましたか？（はい／いいえ）
- 参加者の経験は認められ、彼らは自分自身についての専門家であり、リカバリーには「限界がない」ことを理解する助けを得られましたか？（はい／いいえ）
- すべての参加はいかなる種類の義務づけや強制もなく任意でしたか？力は他の人、ケア提供者、機関、団体ではなく、参加者自身にありましたか？（はい／いいえ）
- 各自に、最終的な答えではなく、行っていることを補完する選択肢や選択が与えられましたか？（はい／いいえ）
- 各自は、自分自身のペースで自分自身の目標に向かって取り組む機会がありましたか？（はい／いいえ）
- このセッションは、誰の個人的な哲学にも適応可能で、他の哲学やモデルに容易に組み込むことができ、（アルコールや他の薬物の乱用・依存からのリカバリーとメンタルヘルスの困難の両方を含む）併存疾患のリカバリーの原則を包摂していましたか？（はい／いいえ）
- このセッションは、各人をありのままの、ユニークで特別な個人として無条件に受け入れ、多様な文化、民族性、人種、性自認、性的指向を包摂し、言語、宗教的信念、能力、「準備状況」の違いに配慮していましたか？（はい／いいえ）
- 焦点は、どれほど気分が悪くても誰にでも使える、単純で安全で常識的な選択肢に当てられ、有害な副作用を及ぼしかねない戦略や、臨床的・医学的・診断的な言葉づかいからは離れていましたか？（はい／いいえ）
- 安全で快適な雰囲気確保のためにできる限りのことが行われたことが明確でしたか？（はい／いいえ）
- セッションの焦点は、欠陥からではなく、個人の強みに当てられていましたか？（はい／いいえ）
- 参加者は、自分に並外れた勇気、強み、才能、能力があることを思い出させられましたか？（はい／いいえ）
- セッションは相互交流的で、各トピックについて参加者からの意見、アイデア、質問を求め、グループにすでに存在する強みを中心に議論を構築し、相互理解と知識を深め、ウェルネスを促進するために協力して取り組むことに焦点を当てていましたか？（はい／いいえ）
- 反応、サイン、あるいは「症状」は、病理化されることなく、人生への正常な反応として見られましたか？（はい／いいえ）
- 常にもっと知るべきこと、学ぶべきことがあると明確にされていましたか？（はい／いいえ）